

もくじ

- 一年を顧みて…… 1
- 親子ふれあい教室… 2
- 認定こども園…… 3
- 宮田小だより…… 3
- 駒王中だより…… 4
- ピバ! ジャズ…… 4
- ふれあいサロン… 5
- 防災士研修会…… 6

宮田まなざし

宮田学区
コミュニティ推進会

第125号

令和7年4月5日発行

〈発行責任者〉

岩間 廣道

〈編集〉

広報部



宮田学区コミュニティ推進会

この一年を振り返って

コミュニティ推進会

会長 岩間 廣道



日立市

にコミュニ
ティ推
進協議会
が設立さ

れたのは、1975年のこと
とです。令和7年で、ちよ
うど50年になり、半世紀が
経過したことになります。
「ふれあいプラザ」が「宮
田交流センター」と名称が

変わったのは平成17年です
から、20年が経ちました。
この間、幾人もの先人の方
々がコミュニティ運営に関
わってくれました。その努
力に深く、心から感謝申し
上げます。

さて、令和6年度を振り
返りますと、当推進会にお
ける最も大がかりなイベン
ト「ふれあいまつり」、「防
災訓練」の両方が、悪天候
のために中止となりました。

地域住民同士のコミュニ
ケーション（ふれあ
い）の基盤との位置づ
けとなるべきものや、
万が一に備える自助・
共助体制と考えるべき
ものができなかったこ
とは、誠に残念であり
ました。

各支部から選出され
た実行委員の皆様には
真剣な、そして活発な
ご議論やご提案をいた
だきました。この計画
は、令和7年度に活か
してもらいたいと思っ
ています。

次に、新しいうねりを感じ
る現象について述べたい
と思います。少子化に関し
ては昨年度の『まなざし』
にも書きましたが、児童・
生徒数の減少を受け、学校
統合なども声高に叫ばれて
いる中、「おもちゃライブラ
リー」における参加者が1
月から2月にかけての6回
分における参加者が36名と
大幅に増加しました。

一部の推進会ではイベン
ト消滅も危惧される中、幼
児によるおもちゃの取り合
いという、ここ数年は見ら
れなかったうれしい光景を
目のあたりにしました。携
わっていたいただいたすべての
ボランティア各位のご努力
に感謝いたします。

今年度は、新たな試みと
して「芸術の秋」をひねっ
た「宮田芸術祭」を実施し
ました。5カ月間連続の作
品展示会です。各先生方に
よるジャンルの異なった作
品に、延べ279名の拝観
者が「目の保養だ」、「すご
い」、「感動した」、「生き
てよかった」などのコメン
トが、芳名帳にびっしりと
並びました。

こんな「住みよい町・宮
田」に来てみませんか。



「あつ。ガスは、電気は、
鍵は…」と、外出先で心配
することが多くなりました。
歳を取ると、物忘れがひ
どくなりす。諸説ありま
すが、歳とともに物忘れが
ひどくなるのは限らないと
いう説もあります。脳には
「変化する力」があつて、
脳が元気になるように変化
を与えるといらしいです。
脳を元気にするには「日
常ささいな楽しみをするこ
と」。運動、食事に、草花を
観たり、音楽を聴いたりし
て、ワクワクドキドキする
ようなちよつとした楽し
みを繰り返すことが元気の
づくりになるといいます。
ところで、身の回りにち
よつとした楽しみをするこ
ろはないのでしょうか。
学区推進会の年間計画をの
ぞいてみました。ふれあい
サロン、ニュースポーツで
遊ぼう、日本書紀講座など、
たくさんありそうです。
脳を元気にするために推
進会の活動を利用するの
も一考と思います。億劫でも
一歩踏み出してみてはどう
でしょうか。〈K・H〉

親子ふれあい教室開催 おもちゃライブラリーとの合同企画

当部では、親と子の出会い、ふれあい、学び合い、語り合う交流の場を大切にしたいという趣旨で「親子ふれあい教室」を展開しています。以下の事業は、宮田交流センターの健康増進室で行われている「おもちゃライブラリー」と合同で企画し開催しました。

● 1月31日(金曜日)
節分祭

当日は「お面づくり」と「豆まき」をしました。まず「お面づくり」では、



準備しておいた無地のお面にクレヨンや毛糸、シールなどを使って色づけしたり飾りつけしたりして、親子による個性あるお面ができ上がりました。

次の「豆まき」では、親子が赤いお面をつけた鬼に向け、袋から取り出した豆を元氣いっぱい「鬼は外」と連呼して鬼退治をしました。小さい参加者にも昔からの風習を教え、楽しく、にぎやかにできました。

「読み聞かせ」では『この

はな、だれ?』と『ぼくのくれよん』を読みました。だんだん長くなる鼻に興味津々で、見入っている姿が可愛らしかったです。

● 2月21日(金曜日)
ひな祭り

当日、参加者の皆さんには「ひなまつり」に合わせて、素敵なファッションで着飾っていただき、華やかなイベントとなりました。そして、色とりどりの折り紙や花紙を使って作業を進めていくと、どこか本人に似た立体的なおひなさまができ上がりました。



「読み聞かせ」では『おでこ、ぴたっ』と『あぶく、たった』の作品を選びました。



た。すると、本の内容に合わせて親子でおでこをぴたっとふれあう様子が微笑ましく、楽しい動きのある読み聞かせができました。

また、今回はゲームなども取り入れ、参加してよかったと思える内容にしたことで、皆さんに喜んでいただけたようです。

★ ★
今後ともスタッフ一同、工夫を凝らしながら子育て世代の力添えの一助になれるように活動してまいります。皆様のご理解、ご協力をいただければ幸いです。

青少年育成部

部長 滑川 和之

みやたおもちゃ ライブラリー

当ライブラリーは、おもちゃ遊びを通して子ども同士や親子のふれあいを深めるとともに、ボランティアの参加により地域との交流を広げ、元気に子育てができるように支援することを目的としています。毎週金曜日の午前9時30分から11時30分まで、時節に合わせて行事やイベントを企画、開催しています。参加者も年々増加傾向にあります。

保育士や保健師、家庭教育サポーターによる子育て、健康管理などの相談も実施しています。悩みや困っていることなど、気軽に相談ください。

スタッフ全員、元気な子どもたちに会えることを楽しみに待っています。ぜひお誘い合わせの上、気軽に遊びに来てみませんか。

また、ボランティアで活動いただける方も募集しています。ご協力のほど、よろしく願います。

福祉推進部

部長 小野崎 照夫

認定こども園の

今年度を振り返って

市立みやた認定こども園

園長 滝 かおり

日頃より宮田学区コミュニティ推進会および地域の皆様方には、ご支援とご協力をいただきまして厚く御礼申し上げます。

さて、コロナ感染症の制約が緩和されて2年が経ちました。こども園の日常もすっかり元に戻り、クラス同士の交流も以前のように増えました。

そのため、夏まつりや運動会、保育発表会といったこども園の大きな行事も分



散ではなく、0歳児から5歳児のみんなが楽しむ行事で楽しむ行事

になりました。久々に園全体の行事になり、どうなるかと不安でしたが、子どもたちの頑張りはもちろん、保護者の皆様から「一年後の姿が今から楽しみで」とか「年長組の頑張りに感動しました」など、皆さんに見守っていただいたあたたかいまなざし、たくさんのご協力で無事に終わることができました。

そして、子どもたちは運動会の練習の過程において大きい子が小さい子の保護者役を務め、一緒に競技の練習をしました。その時の歩幅を合わせて走る大きい子、うれしそうに手をつないで練習する小さい子の姿には、相手を思いやる気持ちや親しみをもって安心して練習する様子が見られ、こども園ならではの環境が、心身ともに「育ち合い」を育んでいるのだと実感できました。

この一年、行事を通して子どもたちが成長していく様子は「0歳児から

宮田小学校
だより

今年度を振り返って

学校長

皆川 渉

児童一人一人の個性は、多様です。

当然、人間関係の上で「気が合う」、「気が合わない」のは出てきます。でも、お互いのいいところも認め合いつながり、違いや多様性を乗り越えて合意を形成できる（折り合いをつける）力を伸ばすための経験を積む場が学校です。



5歳児までが交流する体験が大切である」と再確認した年でありました。

次年度も、こども園ならではの「育ち合い」を日々大切にしながら、保育をしていきたいと思っています。

一年間を振り返って

みると、様々な場面で見守りや話し合いながら合意を形成する姿がたくさん見られました。よりよい学校にしたいという姿勢で話し合い、主体的に合意の形成を目指すことができたからこそ「創立記念集会」、「いじめゼロ集会」などの活動をはじめ、「運動会」、「校外学習」などの行事が成功したのです。

また、授業でも同じことがいえます。学校で行っている授業は、知識を得たり技能を伸ばしたりするだけではありません。たとえば



算数の授業では、正しい答えを出すよりも、なぜこの答えが正答になるのを考え、授業が主流です。それも児童同士で考えを交換しながら、よりよい考えを見つけていくのです。児童は、学年の発達に合わせてタブレットや電子黒板を上手に活用して、お互いの考え方を交換して考える力や判断する力を伸ばしています。



このような児童の姿が、「宮田小らしさ」だといえるでしょう。次年度も「自分から（主体的に）」とともに（協働で）を土台に、宮田小らしさを活かし、合意の形成ができる力を伸ばしていきたいと考えます。

駒王中学校 だより

今年度を振り返って

学校長

藤田 洋

1・2年生は次年度に向けて力を蓄え、3年生はそれぞれの進路が決まり、卒業式を残すのみとなりました。本校は今年度も「たくましさ」と「しなやかさ」の育成を教育目標に掲げ、おおむね目標どおりの成果を上げることができました。

特に今年度は、生徒自身による「学びの自走」と、それを「伴走する教師」集団の育成を重点にしてきました。心身を鍛え、粘り強

く取り組む「たくましさ」

と、多様性を認め、協力しながら問題を解決していく「しなやかさ」は、予測不能な現代社会を生き抜く大切な力であると考えています。この教育目標を達成するためにも、学区内の小学校や地域コミュニティとの連携は欠かせないものです。

今年度、宮田学区コミュニティ推進会が企画・実施された「土曜学校」をはじめ、残念ながら今回は雨で中止となった「宮田ふれあいまつり」と「地域防災訓練」のほか、「小・中学校合同のあいさつ運動」や「日立風流物体験」など、地域に根ざしたコミュニティ活動に多少なりとも関われたことは、生徒にとって大きな成長につながりました。誠にありがとうございます。



また、昨年度より本校は、近隣の明秀学園日立高等学校や日立第一高等学校・付属中学校と合同で、月1回程度のあいさつ運動を行



ったり、学期1回程度の清掃活動を実施し、学校間の交流も深めています。

この活動は「かみね元気プロジェクト」と題し、中高生たちの若い力とつながりで地域に元気を届けようと張り切っています。近くにお住まいの方は、ぜひ声をかけてあげてください。

学校は、地域の「元気の源」です。わが駒王中学校も、宮田小学校や宮田学区コミュニティ推進会の皆様と協力して、地域の皆様と元氣と希望を感じていただけるような学校経営を目指してまいります。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。

ビバ！ジャズ

11月10日(日)、昨年からアンコールリクエストが数多く寄せられていた「ジャズコンサート」を宮田交流センターにおいて開演しました。

ピアノとベース、サックス(フルート)、ドラム、ボーカルの息の合ったハーモニーと落ち着いたアールの歌が絡み合って響き通り、コーヒの香りが漂い、夕方の薄闇色をより濃く染めていきます。誰ともなく「ワイン、飲みたいな」の声。すると即座に「ダメー。ここは交流センターよ」とご年配のご夫婦でしょうか。会話に脚本性さえ感じられます。演奏は2部制で、休憩時にはワインの代わりのコ



ーヒー&クッキーをたしなむなど、それぞれのスタイルでOKです。スタッフに近寄り、耳元で「来年も実施してね」、「年寄りにはこんな機会がないから、楽しいね」とささやいてトイレに立った方が2、3名いらっしゃいました。

このコンサートは、音とふれあう日と決めたゲストとホスト、双方とも満足の日となりました。

生涯学習部

部長 岩間 廣道

ふれあいサロンへ行こう！

◆ふれあいサロン 北町 北町支部

人と人とのつながりを大切に

代表 鈴木 淳子

当サロンは結成21年目を迎え、現在の会員数は42名で、月1回の開催を大勢の人が楽しみにしています。

この一年で特に印象的なものは「シニア英語教室」です。簡単な英単語を覚えた後、音楽に合わせて表現します。後半には「翔平ベースボール大会」が待っています。ボールはすべて転がし、一塁まで歩くというルールで行われるユニークなスポーツです。前半、後半と盛りだくさんで存分に



体を動かさせ、楽しいです。

サロンの一人一人がこの機会を大切な宝物と思っています。人と人とのつながりを大切にし、思い出づくりに励んでまいります。

◆涙の宮ふれあいサロン

東町二区支部

サロン継続がますます困難に

代表 山本 玲子

当サロンは、原前アパートに住んでいる人の集会所を借りて、それぞれの季節にあつた行事などを開催していました。たとえば、7月の「七夕」では、願いを書いた短冊を笹竹に結んで飾りつけ、ひと枝ずつ持ち帰ったりしていました。

ところが、アパートの住民全員が転居を強いられ、夏のさなかに電気も水道も止められ、備品等もすべて整理されてサロンに残っていたのは、テープのみでした。それでも、保健師さんに「転倒予防」の講話をしていただいたりして運営を

◆清幡ふれあいサロン

清幡支部

地域との交流で活性化を図る

代表 小野崎 照夫

サロンを立ち上げて10年以上経過しましたが「そば打ち試食会」や「リング狩り」、「グラウンドゴルフ」、「健康講演会」などを実施し、楽しくやっています。課題としては、会員の高

齢化が進み、足腰を含めて体力の低下が目立つようになってきたことです。地域内の軽いウォーキングや体操、健康に関する講演会などを実施し、体力維持を図ってまいります。

また、子どもを含めた地域住民との交流会を実施することで地域の輪を広げ、

◆ふれあいサロン 東友

東町二区支部

みんなの参加で従来の体制を

代表 小澤 恵子

コロナ禍の期間中の使用は東友公民館の人数制限に従い、2班に分けての活動となりました。5年度の後半になると制限も解除され、2班合同の月2回という元の開催に戻しました。

しかし、月1回の参加に慣れてしまった皆さんは毎回出席とはならず、2回開催が必要かどうかを問う時期となってしまいました。

6年度に入ると徐々に2回出席される方も増え、ゲームや脳トレを中心に賑やかなサロンに戻りつつあり



サロンの活性化を進めていきたいと思っています。



ます。2月は「陶芸教室」を開き、4月には焼き上がってくるお皿を誰もが心待ちにしています。

日立市防災士研修会

2月15日(土)、昨年初めに設立された「ひたち防災士ネットワーク」の研修会が日立市消防本部で開催され、宮田学区防災・防犯部から私を含む防災士6名が参加しました。

この組織の目的は「市内の防災士の防災・減災に関する知識と技術の向上、意見交換や情報共有により連携強化を図り、地域防災力を向上させること」です。

現在は約200名が登録、その半数の100名ほどが本研修会に参加しました。

まず日立市防災対策課の松本課長から市の防災対策事業について説明を受け、



その後はグループに分かれて意見交換を行いました。

隣りに座った方は中小路学区の防災部の方で、小学校統合後の防災訓練場所や昨年から学校と地域住民との合同訓練がなくなったことなどを心配されていました。

大久保学区の方によると、女性防災士が半数以上いて活躍されているそうです。

災害時の「スマホ活用講座」は有益でした。また、災害発生時の安否確認の方法として、NTT東日本の方から「災害用伝言ダイヤル1711」について説明がありました。

全員でスマホを使って安否メッセージの録音と再生の実習を行い、とても役立ちました。

市の「防災士養成講座」は令和4年から始まり、当学区からも毎年2名の方が受講、防災士試験に合格されています。受講料等は、無償です。特に女性の方の応募をお待ちしています。

防災・防犯部

部長・防災士 山本朝男

写真で見る 宮田の昔⑧

神峰遊園地の飛行塔

昭和32年6月、神峰公園に市営の動物園と遊園地が開園しました。

遊園地に初めて設置された遊具は「飛行塔」です。

地上13メートルの鉄塔にロケット型飛行塔を4台つり下げ、動力で巻き上げ旋回するもので、遊覧時間は3分、大人も子供も1回10円でした。年末には「豆電車」が完成し、翌33年には飛行塔の下側に「回転ボート」を増設しました。

当時の市報には『頂上の展望台からは、ひらけゆく日立の街や、太平洋の水平線が限界にひらけ、名展望公園の誇りをほしいままにしている』とあります。

工場で働く従業員を慰労し、一日を家族で楽しむ神峰公園の計画は、日立村が町になった時からありました。昭和8年に日立町に都市計画法が施行されましたが、公園は実現しませんでした。これまでの経緯を知っていた宮田・滑川地区の有志が実現に向けて動き出し、まったくの自発的な団体「神峰公園整備促進会」を昭和28年に結成し、市の公園整備を促しました。



写真は、昭和36年3月1日に撮影されました。遊園地や動物園へ遠足に行った子供たちが記念撮影をした階段、それを昇った先には昭和35年に設置された「観覧車」が今も同じ場所にあります。飛行塔は現在「メリーゴーランド」になりました。園内に子供の声は、日本が

総会のお知らせ

令和7年度 宮田学区コミュニティ推進会の定期総会が下記の通り実施されます。総会への参加者は、新旧の運営委員および各専門部員の皆様です。

《日時》 4月20日(日) 午前10時より
《場所》 宮田交流センター 健康増進室

敗戦から復興を始め、そして高度成長に入ったことの証しのような風景です。

日立市郷土博物館

研究員 萩原明子

編集後記

「宮田まなざし」第125号をお届けします。6年度を振り返っての幼稚園や学校からの声、各サロンの部会の活動報告などです。その中で「親子ふれあい教室」や「みやたおもちゃライブラリー」に若い親子の参加が増えてきたことが報告されています。

「コミュニティ」としては大歓迎です。

〈土龍〉